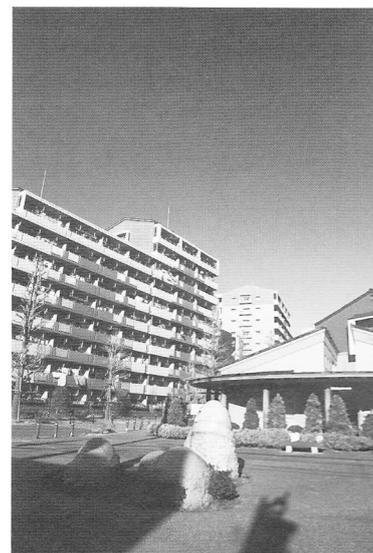


# city&life

都市のしくみと暮らし

no.95  
spring  
2010

特集 団地ルネッサンス



表紙・裏表紙——旧「相模原団地」(昭和36-38年当時)と、建替え後「コンフォールさがみ南」となった現在の街区(表1.photo、表4.photo提供:佐藤真)

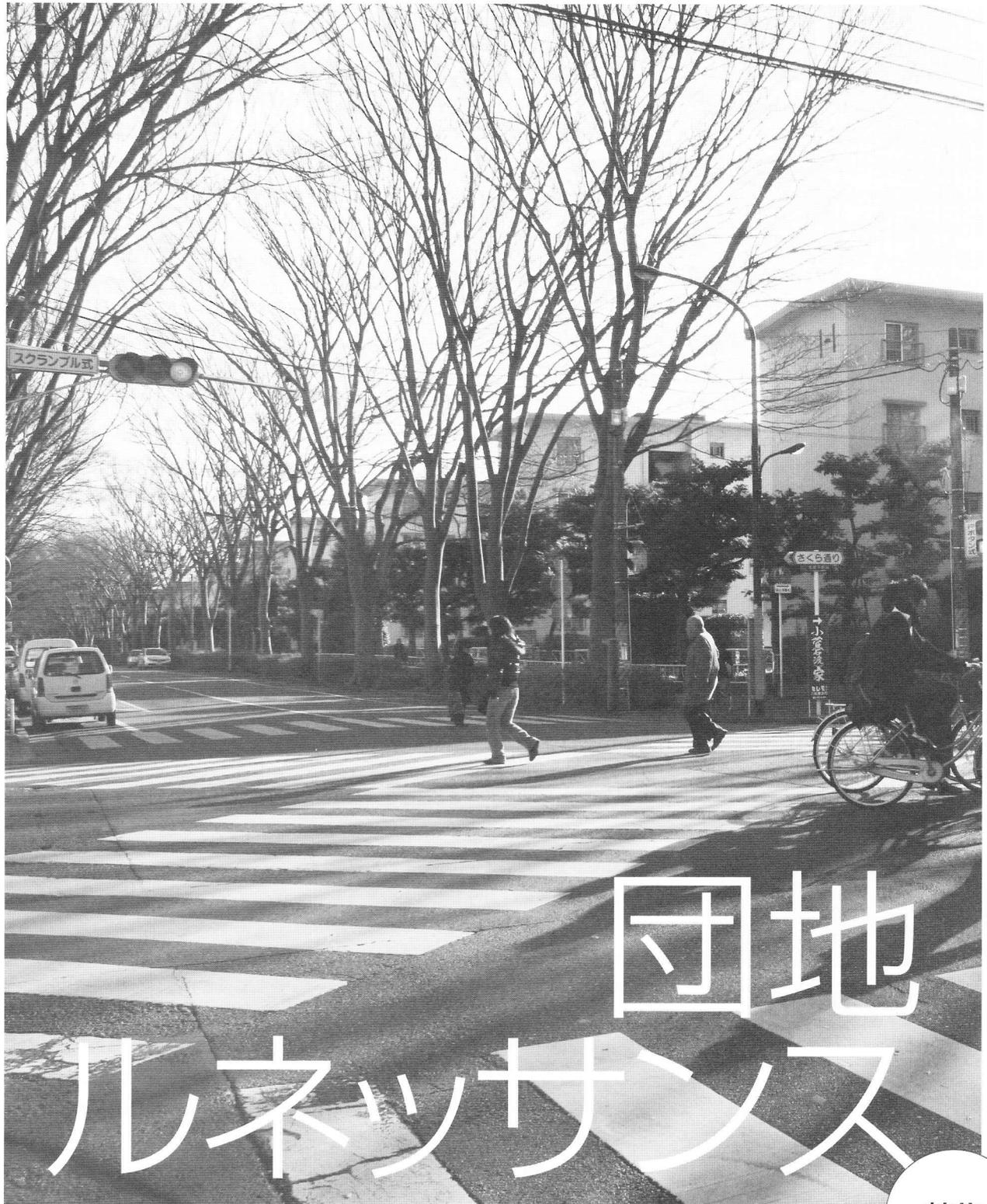
特集

団地ルネッサンス

---

contents	インタビュー   「団地」再生の射程 「地域循環居住」から考える   大月敏雄	2
	ケーススタディ   甦る「団地」 住まい、コミュニティ、自然 コミュニティ   常盤平団地   自治会、住民が一丸となった活動で建替えを中止。 高齢化や建物の老朽化問題を住民の連携で補う	6
	建替え   多摩平の森 (旧多摩平団地)   足掛け14年に及ぶ、住民、UR、行政、三者の対話で住環境を維持	10
	交流   高島平団地   高齢化した団地に若者を呼び込む。大学とタッグを組んだ団地再生プロジェクト	15
	リノベーション   ひばりが丘団地・ルネッサンス計画1   ストック型社会に大きく舵をとった、リノベーション実験	27
	グラフィック/年表   団地の変遷、暮らしの変遷	17
	ルポ   古くて新しい「団地ライフ」 ぼくらが「団地」を好きな理由 <sup>わけ</sup>	32
	インタビュー   団地再生は、住宅政策の見直しから   平山洋介	36
	back number・information	40

---



特集

「団地」という言葉はもともと「一団の土地」という法律用語から産まれたという。それが一般化したのは1958年。この年の7月に発行された『週刊朝日』の特集で、主にRC造、ボックス型の集合住宅に暮らす人々を、「ダンチ族」と呼んだ影響が大きいようだ。同じような間取りに暮らす、同じような家族構成をもつ、比較的高収入な人々。「新しい庶民」と呼ばれた「ダンチ族」の暮らしは、戦後のライフスタイルを象徴した。それから半世紀を経た現在。当時建設された団地の多くは、建物の老朽化や住民の高齢化など、さまざまな課題を抱えるようになった。ところが昨今、そんな「団地」が見直されつつある。「住み慣れた町に住み続けたい」という住民の願いやコミュニティの維持などはもとより、住棟間隔が十分にとられた屋外空間には、豊かな緑地環境が育まれている。また、かつて最先端のライフスタイルを支えた建物がかつてデザイン性の高さがメリットとして捉えられるようになってきた。さらにリノベーション技術の発達なども後押しし、現代的な生活にあわない内部構造を改築しながら躯体は残し、再生させる試みも登場してきている。「住まい」にとって必要なものはなんなのか、私たちが求める「暮らし」のあり方とはどういったものなのか、「団地再生」の取り組みを切り口に考えていく。photo:佐藤真「常盤平けやき通り」(関連記事:p6)